

令和7年度 第3回香美市廃棄物減量等推進審議会（会議録要旨）

開催日時：令和8年2月24日（月） 午後2時から午後4時

開催場所：香美市役所本庁舎 3階301会議室

出席委員：西内委員、濱口委員、宮地委員、萩野委員、為近委員、宮内委員、
大野委員、田村委員、和泉委員、川崎委員、細見委員、横谷委員 計12名

欠席委員：石川委員、宮内委員 計2名

事務局：（環境課）依光課長、公文班長、谷係長

（株東和テクノロジー）門脇部長、福永所長

【会議録要旨】

1. 開会

2. 議題

（1）香美市一般廃棄物処理基本計画（案）について

- ・パブリックコメント（令和7年12月22日～令和8年1月16日）については、意見なし。
- ・素案から変更部分について説明（最終処分場の埋立開始年度・埋立面積など）。
- ・ごみ処理基本計画（現行計画の総括・計画の目標・目標達成のための基本施策・計画の推進）の要点を説明。

（主な意見及び回答）

○次期最終処分場の整備：

- ・現時点で具体的な計画はなし。現在は民間最終処分場を利用中。分別・リサイクルで埋立量抑制を推進。

○資料の数値に関する質疑：

- ・金属類が令和3年から令和4年で増加している理由については、コロナ関連の片付け等の影響が推測されるが、詳細は調査の上提示予定。
- ・リサイクル率（従来目標20%）が現状17.6%で未達成である。今回の計画では目標値扱いからモニタリング指標へ変更し、約18%程度を目安にする方向。
- ・最終処分量（従来目標910t/年）が現状546t/年で大きく下回って達成されている理由については、過去はごみステーション等の不燃や粗大ごみを埋立量として報告していたが、令和5年度からは実際に埋め立てた量のみを計上するよう集計方法を変更したため、数値に乖離が生じている。

○市民・団体からの取り組み報告：

- ・食品ロス削減：ヘルスメイトでの勉強会、家庭での買い過ぎ、作り過ぎ防止・食べ残し防止等の実践。
- ・大学・企業・農協の取組：ペーパーレス化、発注・包装の工夫などで排出削減に

取り組んでいる。

○生ごみ処理容器（コンポスター・電気式）補助について：

- ・需要が高く、補助拡充を検討（実施時期は令和9年度以降を想定）。電気式の申請が多く、年間の実績は10件程度。コンポスター、EMサポートは年間数件。

○計画案の採決：

- ・計画案は全員挙手で承認。事務局で最終調整のうえ市長決裁後、公表。
- ・会長より計画策定に尽力いただいた委員各位への謝意。

(2) 一般廃棄物処理手数料の見直しについて

○事務局から説明：

- ・複数案（A・B・C）提示。事務局は「C案（可燃ごみに特化した値上げ）」を提案。目的は可燃ごみの削減と資源リサイクル推進、得られる財源を補助金などに回す想定。
- ・改定は令和9年度（市議会提案は令和8年度議会で審議の予定）。

(主な意見及び回答)

- ・家庭・事業者の負担増への懸念（特に事業系の負担増が大きい）。
- ・販売店や事業者に与える影響、価格転嫁で消費者負担が増える懸念。
- ・他市町の動向（宿毛市、大月町など）は参考事例として紹介。香美市案は他市町より比較的抑えた水準を意図。
- ・事業用可燃ごみを袋を使わず直接清掃組合へ持ち込む場合の料金（10kgあたり140円）などの比較情報あり。遠隔地は運搬費が課題。
- ・料金改定で得た財源を生ごみ処理容器の補助等に使うことを期待する意見。
- ・手数料改定案の採決：審議会としては「可燃ごみに特化した値上げの方向性（C案の方向性）を重視する」旨を出席委員多数の挙手で了承。ただし具体の単価は市長・副市長や議会で最終決定し得るため変更の可能性あり。

(3) その他

- ・リチウム電池の回収方法について：4月から市全体で各支所・本庁に持ち込み可能にする予定。現在は、膨張した電池は環境課へ直接持参するよう案内。リサイクル協力店での回収も継続。
- ・審議会の今後：令和8年度の審議予定は現時点では特に計画なし。委員任期は令和8年度末まで。

3. 閉会

- ・環境課長より、計画が無事完成したことの委員各位への謝意、並びに、引き続き分別・リサイクルの徹底、手数料改定は可燃ごみに特化する方針で慎重に進める旨の説明。手数料改定は令和9年4月実施を想定し、事前に市民への周知を行えるよう計画的に準備を進める旨の説明。